

平成 26 年度事業報告(概要)

1. 事業計画

(1) 内容

学生の自主性、創造性を刺激することにより、勉学意欲の向上を図るため、学生自主企画による研究プロジェクトを公募し、選考されたものに対して、研究資金を助成する。その研究成果の発表会を開催し、理解の共有化を図る。

(2) 申請者

愛知県立大学生、同大学院生で構成された研究グループ(グループ内の学生の所属学部・学年は不問。できれば学部や学年が混在することが望ましい。)は、代表者を含む正規構成員(3名～10名)と協力者(0名～人数制限なし)とする。同一人が、正規構成員として複数グループに属することはできない。本学専任教員1名の推薦が必要。推薦教員はその研究グループのアドバイザーに就任する。

(3) 研究テーマ

自由。ただし、授業での研究、個人の卒論・卒研・修論・博論と同一の研究、および、過去に採択された研究課題と同一のものは不可。

(4) 助成金額

最大 300 千円/件

(5) 助成件数

最大 11 件

(6) 採択方法

第一次審査 提出書類による。

第二次審査 第一次合格グループに対して公開ヒアリングを行い、選考委員会が決定。

(7) 研究期間

2014年6月1日(日)から2015年1月20日(火)まで

(8) 研究成果公開

研究終了後、研究発表会を開催する。その後、レポートを製本し、学内外に配布する。

2. 経過

4月中旬	公募説明会実施 (4/21, 4/23, 4/25) 45名参加
4月15日	募集要項公開
5月19日	申込締切 申込件数13件
5月22日	第一次審査 13件を選考
5月24日	第一次審査結果発表
5月28日	公開ヒアリング 13:00～15:00 (H005) 発表7分・質疑応答2分・交代1分

	<p>審査員：副学長、学部長、センター長</p> <p>各審査員が、①「研究」または「地域や社会に貢献する取り組み」、②「自主的な問題意識」、③研究計画、④予算の使い方と研究計画との関連、⑤プレゼンテーション、の5基準を各4点で採点、合計20点満点で採点</p> <p><参加者 80名></p>
5月28日	審査結果をもとに、教育支援センター運営会議で原案を作った上で、最終選考を行い、10件を採択。
5月30日	第二次審査(最終)結果発表
6月5日	採択グループに対する研究助成金取扱説明会 (学務課)
6月25日	<p>学生自主企画研究関連講座・研究スキルアップ講座開催</p> <p>13:00～14:30「社会調査入門」 亀井伸孝 准教授(国際関係学科)</p> <p><参加者 54名></p>
10月15日	<p>中間発表会</p> <p>13:00～15:50 (H005) 発表8分・質疑応答3分・交代2分</p> <p><参加者 75名></p>
1月21日	研究期間終了
1月21日	<p>研究発表会</p> <p>13:00～16:00 (H004)、発表12分・質疑応答・2分・交代1分</p> <p><参加者 85名></p> <p>終了後、交流会・表彰式 ～17:00</p>
1月23日	実施報告書提出

3. 評価と課題

- 本事業も8年目となり、募集開始から最後の研究発表会に到るまで、順調に進めることができた。
 - 今年度より、本事業と地域との連携を強化するため、「愛知県山村振興室」との連携による枠を1枠設けて募集を行った。
 - 応募要領の「審査基準」は、①「研究」または「地域や社会に貢献する取り組み」であること(ただし、単なる「活動」ではなく、「自主的な問題意識」を持って、何を明らかにし、そこから何を学び取ろうとしているか、が明確であること)、②実行可能性、③プレゼンテーションとし、この基準に従い、第一次審査、第二次審査(公開ヒアリング)を実施した。
- また、昨年度と同様、採択され研究成果を発表したグループの中から、優秀なグループには研究テーマを記した学長名の賞状(金賞・銀賞)および副賞(図書カード)を授与することとした。

□過去5年間の応募件数、採択件数の推移は以下の通りである。

年度	応募件数	一次選考合格件数	採択件数
平成22年度	10件	10件	8件
平成23年度	15件	12件	10件
平成24年度	10件	10件	10件
平成25年度	14件	14件	11件
平成26年度	13件	13件	10件

□一次選考は書類選考とし、応募13件中13件を合格とした。審査は教育支援センター運営会議構成員が、①「研究」または「地域や社会に貢献する取り組み」、②実行可能性の2項目について、条件を満足している場合は3点以上(5点満点)で採点し、評価の平均が6点以上のテーマを選出した。

□二次選考は公開ヒアリングとし、審査は募集要項に明託の3基準を基に①「研究」または「地域や社会に貢献する取り組み」、②「自主的な問題意識」、③研究計画、④予算の使い方と研究計画との関連、⑤プレゼンテーション、の5基準を各4点で採点、合計20点満点で審査員(副学長、学部長、センター長)が採点した。採点結果に基づき、10件の採択を決定した。

□学生自主企画研究関連講座・研究スキルアップ講座として採択されたグループの構成員を対象に、亀井伸孝先生(国際関係学科准教授)の「社会調査入門」を開催した。

□中間発表会は、参加者75名であった。ほとんどの研究グループが全プログラムを通して参加し、学生からも活発に質問が寄せられた。また、従来どおりコメント用紙を用意し、会場の参加者に各発表グループ宛にコメントを書いてもらい、後日各グループに渡した。

□研究発表会は95名の参加があり、いずれのグループもしっかり準備されたプレゼンテーションで、質疑も活発に行われた。

□今年度から採点方法を変更した。採点は「研究内容」、「コンテンツ」、「プレゼンテーション」について、それぞれ5点の合計15点満点とした。採点資格についても、教職員は5グループ以上の発表を聞いた場合、学生は全グループを聞いた場合とした。なお、副学長、各学部長、各センター長の配点は2倍(30点満点)で計算し、得票数により金賞と銀賞を選出した。

賞	代表者	研究テーマ
金賞	石井 俊 (国際関係科)	学生主体の広報活動
銀賞	椿本 樹矢 (情報科学研究科)	ロボットとのインタラクションによる人間の認識の変化

□研究発表会終了後、短い時間ではあるが、簡単なお茶とお菓子を用意して懇親会を行った(後援会からの支援を得た)。その間に金賞、銀賞を決定して発表を行い、副学長から賞状および副賞の図書カードが授与された。

4. 終わりに

本年度の自主企画研究には13件の応募があり、10件を採択した。公開ヒアリングでは、学術研究的なテーマ、地域への貢献を目指したテーマ、学内生活や環境へ貢献するテーマ、学生の生活改善テーマなど、自主企画研究のねらいに沿った様々な研究の提案があった。今年度の新しい試みとして、自主企画研究の募集にあたって、山村地域での活動を条件に加えた「山村枠」を設けた。平成25年8月、山間地域集落の維持や活性化を目的とした愛知県山村振興室「三河の山里サポートデスク」が設置され、本学との連携についての打診があった。自主企画研究の趣旨とも合い、学生の過疎地域に対する理解の促進、愛知県との連携を通じたより積極的な地域貢献につながることから、募集段階から「山村枠」を周知し、1テーマを採択することとした。学生グループの取り組みは新聞二紙の地方版にも取り上げられるなど、本事業の新しい試みは外部からも評価され、うまく動き出したようである。

また、本年度は、研究発表会での審査について、研究内容、コンテンツ、プレゼンテーションの3点から総合的に評価するようにした。そのため、学生グループにも報告書や関連資料を事前に提出してもらい、会場で閲覧できるようにした。発表会では、教員だけでなく、学生からの質疑も活発に交わされ、主体的に学びながら研究を進めてきた学生の力、成長を感じることができた。本年度実施された自主企画研究の中には継続的な研究テーマがいくつかあるが、そうした研究は年々深みが増してきており、それぞれ素晴らしい成果を上げている。一方、研究をはじめて手がける学生らしい新鮮な発想のテーマもあり、そうした様々な研究テーマの提案、育成、支援、評価については、今後、学生自主企画研究をより発展させるための課題といえよう。今後も自主企画研究が本学のユニークな「魅力あふれる大学づくり関連事業」として一層発展するよう活動を続けていきたい。

本事業を進めるにあたり、多くの方々のご支援、ご協力を頂きました。スキルアップ講座の講師を務めて下さった亀井伸孝先生に感謝します。献身的にこの事業全般を支えてくださった学務課木下圭一郎課長、発表会場の準備を含め開通する様々な業務を支えてくださった川島香織係長、加藤可純主事、高橋典子さんをはじめとする学務課の皆さんに深く感謝します。今年度も発表会の司会をテンポよく進めてくださった池田周先生に感謝します。公開ヒアリング、中間発表会、研究発表会における質疑応答に多大なご協力をいただいた、学長、副学長、学部長、センター長を始めとする教員の皆様に感謝いたします。本事業の意図をご理解頂き、連携事業を進めてくださった愛知県山村振興室に感謝します。最後に、自発的にこの事業に応募し、学内外で様々な視点から自主的研究を行い、見事な研究成果をまとめ上げた学年の皆さんに感謝します。

教育支援センター長 神山斉己